



「挨拶をすることの大切さ」

教頭 宮澤 悟史

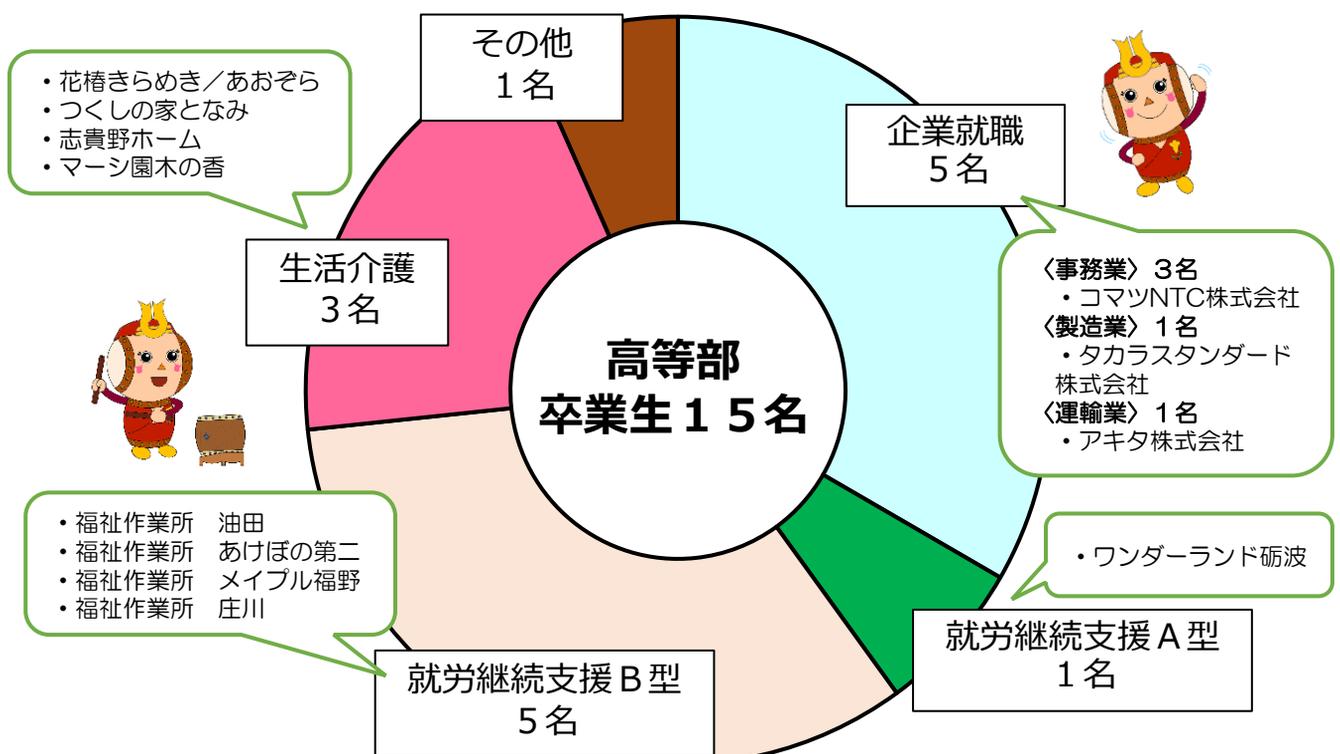
「おはようございます」「おはよう」登校してくるみんなの元気な声が朝の玄関に響きます。働くために大切なこととして、進路に関わる研修会や就業体験先の方からまず言われることに「挨拶ができること」があげられます。

挨拶は、人と人とのコミュニケーションの基本であり、円滑な人間関係を築くために重要になります。挨拶をすることは、相手の存在を認め、尊重しているという気持ちを伝えることができ、信頼関係を築くための第一歩となります。また、挨拶は、緊張をほぐし、場の雰囲気をもたらし和ませる効果があり、よりスムーズなコミュニケーションのきっかけとなります。

そして、挨拶は、社会や組織の中では、相手に良い印象を与えるための重要な要素であり、明るく元気な挨拶をすることで相手に好印象を与え、好感度を高めることができます。このように、挨拶することで伝わるものは、相手への敬意、コミュニケーションへの積極性、明るく前向きな姿勢、そして何より社会人としての責任感が現れるものとなります。

「挨拶ができる」の「できる」はどのような様子を指すのかを考えてみると、小さな声で、はっきりとした声で、会釈だけで、相手の顔を見て、誰にでも、どんな場面でも、などいろいろな「できる」があるように思います。生活を共にする人たちと仲よく、気持ちよく過ごすために、今自分はどんな挨拶ができているのかを見つめ直し、これからどんな挨拶にしていきたいのかを目標に、まずは自分ができる挨拶から「すてきな社会人」につながる挨拶を目指して行ってほしいと思います。

令和5年度 卒業生の進路先



特別支援学校 就労支援セミナー 2月6日(火)

高等部1、2年生の生徒と保護者を対象に、富山労働局主催の就労支援セミナーがあり、「在学中に頑張してほしいこと」「保護者の役割」「地域における障害者雇用の現状」について話を伺いました。生徒は、話に集中しメモをたくさん取る姿が見られました。

〈講師〉 富山労働局職業対策課 就職支援コーディネーター 端 久美 氏
砺波障害者就業・生活支援センター 主任就業支援ワーカー 武島 香織 氏
アルビスクリーンサポート株式会社 代表取締役社長 安田 泰弘 氏

武島氏の講話

仕事は誰かの役に立つことです。自分に合った仕事を見つけていきましょう。働くためには、①生活する力、②働く人としての力、③仕事をする力の三つが必要です。中でも、長く働き続けるためには「生活する力」が大事です。就業体験はもちろん、学校でも一生懸命学び、先生や友達から信頼される人になりましょう。

安田氏の講話

就業体験は“働く”上で大切なことを学ぶ貴重な機会です。学校で学んだことを就業体験先で発揮し、就業体験で学んだことを忘れずに卒業後の生活へとつなげていってほしいです。

保護者の皆さんは、卒業後の進路について、お子さんとたくさん話をしてあげてください。

「在学中に頑張してほしいこと 10」 武島氏より

- ① 時間や約束を守ろう
- ② 元気にあいさつをしよう
- ③ 「ありがとう」「ごめんなさい」を言おう
- ④ 「分かりません」「教えてください」を言おう
- ⑤ ていねいな言葉づかいをこころがけよう
- ⑥ 注意されても、怒らずに素直に聞こう
- ⑦ 規則正しい生活をしよう
- ⑧ 体力をつけよう
- ⑨ 学校以外の時間に趣味を持とう
- ⑩ 家庭の中で役割を持ち、それを続けよう

〈就労支援セミナーの様子〉



〈質疑応答の様子〉



セミナーでの質疑応答

Q、働く気持ちを持ち続けるにはどうしたらいいですか。(高2生徒)

A、自分の好きな仕事や得意な仕事を見つけ働くことが大切です。好きな仕事であれば、続ける気持ちが芽生えやすいと思います。(武島氏)

Q、仕事を続けられなかった時は、どうしたらいいですか。(高2生徒)

A、そのような時は我慢せず、まずは身近な人に相談してみてください。家族や職場の信頼できる人でもいいと思います。(安田氏)

生徒の声(事後アンケートより)

- ・教えてもらったことをメモを使って覚えること、まわりの人の話をよく聞くことが分かってよかったです。
- ・改めて仕事の大切さを学ぶことができました。
- ・仕事を休まず、健康な体にして集中力を身につけようと思いました。